

生涯教育研修活動報告書

輸血検査研究班

- 1 実施日時：2023年6月8日 19時00分～20時30分
- 2 会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点
- 3 主題：輸血検査の各検査法を正しく理解しましょう！
講演1：マイクロプレート法の原理と特徴について
講演2：カラム凝集法の原理と特徴について
- 4 講師：講演1：八木 良仁（株式会社イムコア）
講演2：齋藤 大輔（オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 102名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 岸健太 小原佑太 比嘉絢子
岩崎篤史 廣田渉 川内沙織

8 研修内容の概要・感想など

今回は「輸血検査の各検査法を正しく理解しましょう！」と題して、各検査法の原理と特徴について理解を深める目的で研修会を行った。

八木氏の講演ではマイクロプレート法における測定原理の解説から始まり、実際の検査プロセスおよび他の検査法と比較した場合の結果の違いについて丁寧な説明があった。マイクロプレート法の血液型検査は試験管法を比較すると弱い反応が検出しにくく、また亜型などでみられる部分凝集は機械的な判定が困難な場合があるという点で異なっている。不規則抗体・交差適合試験・DATは固相法を原理として、IgG型不規則抗体の検出感度に優れている。

一方、臨床的意義が低いとされているIgM型抗体や冷式抗体を検出しにくい特徴がある。マイクロプレート法を用いることで日常検査の中で度々遭遇する冷式抗体による反応が検出されにくくなるため、業務の効率化につながることも期待できる。検査法が異なると得られる結果も変わってくるのがわかり、各検査法の特徴を正しく理解しておく必要があると感じた。

齋藤氏の講演ではカラム凝集法の基本的な原理に加えて、検査の際の留意点と予期せぬ反応について解説があった。フィルター効果によって分離された赤血球を効率よく判定するためにカラムの形状が楕円形になっていることや検出感度を上げるために自動分析装置内で二

段階の遠心が行われていることなど検査ステップの中にある工夫も知ることができた。カラム凝集法の検査手技ではエアーギャップを作ることが特に重要で抗グロブリン試薬の中和防止、効率的な混和・加温、異種凝集素による偽陽性防止に大きく関わっていることがわかった。また、検査の際にみられる予期せぬ反応として、手技・試薬に起因したものと検体に起因したものについて紹介され、日常検査で遭遇した際に役立つものであった。

今回の研修会で学んだ検査法の原理や特徴、さらには検査の限界も理解した上で日々の検査を実施していただきたい。

提出日 2023年 6月 23日

文責：廣田渉